

平成24年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495500199	事業の開始年月日	平成24年2月1日
		指定年月日	平成24年2月1日
法人名	株式会社 日本アメニティライフ協会		
事業所名	花物語みやまえ		
所在地	(〒216-0022) 川崎市宮前区平2-19-62		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		工外数	2工外
自己評価作成日	平成24年 1月 3日	評価結果 市町村受理日	平成25年7月16日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

花物語みやまえは、溝の口駅より、おし沼行き、向ヶ丘遊園駅東行きバスで約15分程のところから坂を上ったところにある、静かで緑の多い自然な環境の中にあります。
平成24年2月1日開設の認知症対応型共同生活介護施設です。
施設理念に基づいて、今までの暮らし方を尊重し、その人らしい生活を継続できるようチーム（施設全体）で取り組んでいます。お風呂は午後3時頃から始め、なるべく夕方にかけて入浴できるよう支援しています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成25年1月18日	評価機関 評価決定日	平成25年6月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業者野概要】
当事業所はJR南武線、田園都市線溝の口駅からバス20分、西武療育センターから5分、高山団地の下の住宅地の中にある。2階建て、2ユニット、開設後1年の新しいグループホームである。法人の意向で「花守り」担当者が毎週、生花を飾り、華やかな雰囲気作りをしている。管理者、職員が近隣に住んでおり地域の事がよく分っている。管理者の努力により利用者も増え、地元へ根をおろしている。

【理念に基づいた運営】
理念の一つに「家庭的な温かさや安らぎのある暮らし」をあげ、利用者一人一人が今までの生活を維持出来るように、また、自由に過ごせるように手助けをしている。近くに住む家族がよく来訪し、利用者の様子を見に来たり、外食や買い物と一緒にいたりすることが多い。行事には家族を呼び一緒に過ごすようにしている。中華料理を得意とする家族と事業所とが協力してバイキングを行ない、他の大勢の家族が集まり利用者と共に楽しむなど良好な関係が築かれている。また個別ケアの一つとして、誕生日は、個々の希望を活かすような方法をとっている。管理者、職員同士の関係が良好で、やさしい声掛けや対応で、利用者と共に生活をしているのが察せられる。

【運営推進会議の充実】
地域に根差した、地域の人達との交流も理念の一つに挙げており、運営推進会議は開所以来、2ヶ月に一度、自治会長、民生委員、区の担当者、地域包括支援センター長や地域の住人（オーナー）の参加で開催している。自治会には加入していなかったが、盆踊りや「コミュニティ喫茶」に参加するなど、近隣の方々と交流していた。その後、会議で外部評価をきっかけに地域密着について話し合った結果、自治会に加入することができるようになった。また出席した地域包括支援センター長のアドバイスから、事業所で近隣の人が主催している体操教室をホームでも行なえるようになるなど、今後の発展も期待される。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語みやまえ
ユニット名	2 F

アウトカム項目	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全ての職員が施設理念を理解し、入居者様のお気持ちをくみ取るよう努めています。おひとり、おひとりがその人らしく暮らせる自分の居場所だと感じていただけるよう、支援しています。	事業所の開設準備時に管理者が作成した理念、「家庭的な温かさと安らぎのある暮らし」、「それぞれの生きてきた人生を尊重し『楽しみ』を支援する」や「地域に根差し地域の方々との交流」など5つをあげて、玄関、各ユニット、出入り口、キッチン、相談室に掲示している。会議やミニカンファレンス、申し送り時等に職員と話し合い、理念に照らし合わせ日々のサービスにつなげている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	盆踊りやコンサート、毎週日曜日に行われる喫茶に参加しています。散歩の途中で参加する喫茶には、近隣の方の参加が多く交流のもてる場となっています。入居者のお買い物は、日常的に入居者と一緒に顔見知りのお店で買っています。また、地域包括支援センターの定例会議に参加して地域の問題なども共有して繋がりを深めています。	今回の運営推進会議で、自治会の加入が認められた。自治会の行事の盆踊りや、コミュニティー喫茶などに参加して地域の人達と交流している。傾聴、演芸、コーラス、ネイルアートなどの地域のボランティアや、保育園児、高校生ボランティアの来所もあり利用者を楽しませている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の見学会や説明会を開催し、近隣の方々を招いて施設の説明と同時に、認知症や介護保険についても説明をしています。また、近隣の盆踊り大会などに参加し、地域の方に認知症の人と触れ合いの機会も持っていただくと共に、認知症の人でもできる事を理解していただくよう努めています。		

4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、地域との関わり方や地域で行っている行事、会議など多岐にわたり、ご意見を頂戴し参考にしています。地域包括支援センターの行事などに声をかけて頂いて、多数参加しています。</p>	<p>運営推進会議を開所時から2ヶ月に一回、継続して開催している。宮前区役所介護支援課担当者、地域包括支援センター長、自治会長、民生委員(4名)、オーナー(地域の住人)、家族、利用者代表の参加がある。事業所の現況や事故、ヒヤリハットの報告をし、また地域から情報をもらうなど、話し合いが行なわれている。この会合により念願の自治会加入が認められ、地域の体操教室に協力することになった。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>宮前区近隣の地域包括支援センターや、宮前区の高齢者支援課へ定期的に訪問し、運営推進会議や施設見学会の情報をお伝えしたり、相談に乗っていただいたりアドバイスをいただいています。</p>	<p>宮前区に運営推進会議議事録の提出や介護申請の代行に出かけた時に情報交換をするなど、常に連携が出来るようにしている。区主催のストレッチ体操の研修にも参加している。 地域包括支援センターとの連携もよく、常に情報交換をしてアドバイスをもらったり、同所主催のケア会議に参加するなど良い関係を保っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修にて『身体拘束ゼロの手引き』をもとに、事例検討を含めて、職員への指導を行っています。現在身体拘束を行っている入居者様はいらっしゃいませんが、必要に応じて家族を含め話し合いを行っています。また、施設玄関については防犯上施錠されていますが、入居者様のご希望に応じて職員と共に外出していただいています。	身体拘束について事例検討を交えた研修で周知徹底させ、拘束を行わないケアを実践している。服を脱ぐ利用者にズボンを紐で結ぶなど、やむを得ない場合に職員と検討し、対応したこともある。玄関とユニット出入り口は急な坂道に面しており、また階段などは危険なため、家族の承諾を得て、施錠している。利用者が外に出たいそぶりを見せた時などにはすぐに対応している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の中で、事例検討を含め、どうい場合が虐待になりうるケースなのかを話し合い、理解を深めています。職員も虐待を見過ごさないように意識を高く持つように心がけています。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	このサービスを必要としている利用者は、まだいませんが、認知症ケアを行う上で、必要な知識として、職員間でも話し合いの場を持っています。また、必要だと思われるご家族には、制度の説明を行っています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、話し合いを多く持ち、お互い納得の上でご入居いただいています。特に、終末期ケアや、医療行為に関する疑問を具体的に説明し、転倒の不安がある方には、対応方法の具体的な事例を挙げ、ご家族のご意向として、ケアに反映しています。		

10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時の面談や、随時の電話連絡により、家族の意見を取り入れるよう努めています。日々の利用者、ご家族との関わりの中で、面会時間のご相談なども随時取り入れ、仕事帰りでも面会できるようにしています。</p>	<p>家族の訪問時にはケア記録を見てもらい、要望等を聞いている。メールや電話でも意見交換をしている。事業所の行事には家族に声をかけて出来る限り参加してもらい、その際にも意見を聞いている。バイキング大会には大勢の家族が来所し、家族間の交流、親睦が深まり、意見なども聞く事が出来た。「職員の名前が分からない」という意見に対しては職員の写真入りボードを作成した。往診医の医療情報が欲しい人には、看護記録を閲覧してもらっている。</p>	
----	---	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を通じて意見や提案を検討し、よりよいものにできるよう努めています。意見が出しやすいよう聞き取りシートを配り、コミュニケーションを取りやすい風土づくりに努めています。	月1回の職員会議やミニカンファレンス、申し送り時の他、職員が常時、管理者に意見を言える機会があり、管理者も前向きに対処している。レクレーション、食事担当など、役割分担制にしており、職員が自主的にイベントなどを企画、実施できるようにしている。業務手順の変更などの提案が頻繁にあり、出来るものから実施に移している。「離床センサーを付けて欲しい」との要望に対して、現在、検討している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新時に個人面談を行い、就業時間の増減や、契約社員や社会保険の加入についての希望等、契約条件などを考慮し、雇用契約を取り交わしています。無資格者には、資格取得支援制度などの奨学金制度も整備してあります。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の定期的な実施や外部研修への参加・資格取得を推奨するなど、個々のスキルの向上を働きかけています。法人内でた施設への実習や、実習生を迎えることで、多くの気づきを得て学習しています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市町村等からの研修等や他施設見学に参加する事により、同業者との情報交換やネットワークを構築するよう努めている。また、他事業所との職員間の交流も行っており、サービスの向上を心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、家族や本人に要望や不安ごとを聞き、利用開始時にはアセスメントをしっかりと、会話の機会を多く持つことで、信頼関係を築けるように努め、どんな事でも話していただけるような良好な関係性を持てるよう努めています。入居者の要望は丁寧に聞き取り、ケアに反映させています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人ご家族が困っている事や不安な材料や要望を聞き取るよう常に連絡を取り合い、アセスメントや介護支援計画書に反映させ、安心して利用していただけるように努めています。例としては、入居者の小遣い持参については、入居者のお気持ちや社会性の持続に配慮し、紛失の可能性もあるという説明をした上で対応しています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の度合いや、おかれている環境を把握し、入居者と家族の物理的・精神的環境を考慮し、GHが適切かどうかも考慮し、サービスにつなげています。場合によっては、小規模多機能型居宅介護や、他事業などへの紹介も行っています。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を第一に尊重し、本人のADLや意欲に沿った方法で、職員や他利用者と共に行動することで完成し、仕事ができる喜びを分かち合い、他者と協力しながら生活できるように努めています。		

19	<p>本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>常に家族の意見も反映できるようにし、ご本人の情報をご家族とも共有し、一方通行にならないように心がけています。帰宅願望の強い方への対応については、カンファレンスを行い、統一した声掛けやケアを行っています。</p>		
----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に使っていた訪問介護事業所の職員が訪ねて来たり、ご家族との電話では、コミュニケーションが取れるよう支援しています。また、ご家族との外出の機会が増えるよう、馴染みの場所の提案などを行っています。	利用者に近隣の住人が多いこともあり家族もよく来所する。友人や以前のお茶会の仲間などの来訪時にはお茶を出し、居室などで歓談してもらっている。近くの馴染みの店への買い物や利用者の好みの買い物に車で一緒に行く。手紙、年賀状の取り次ぎや宛名書き、投函などの支援をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	手芸クラブ、音楽クラブ、体操クラブを作り、入居者の希望に応じ参加していただくことで、1F、2Fの交流が生まれ馴染みの関係が育まれています。また、仲良しのお茶飲み会も入居者の安らぎとなっています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一度ご縁の出来たご家族へは、定期的に『みやまえ通信』を郵送しています。ご家族を通し、地域社会への情報提供や交流の輪を持続的に支援していきたいと考えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々のケアの中でアセスメントを行い、申し送りやカンファから、随時意向や希望の把握を行っています。ご本人の要望にあわせ、出前を取るなど食事内容を変更しています。自立度の高い方は、急な要望に応え買い物と一緒に外出するなどのお手伝いをさせていただいています。</p>	<p>アセスメントをもとにして利用者の日常の様子や行動、会話などから思いや希望を把握している。「パンが食べたい」、「お鮎が食べたい」などの要望には、出前をとったりして対応している。入浴時には、会話が弾み思いを把握する良い機会になっている。把握の難しい方については家族から聴き、生活歴などや表情や仕草から汲み取るようにしている。これらの情報を管理者と職員が共有し、話し合っケアに活かしている。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前や入居後も、利用していた担当ケアマネジャー及び、家族や本人から情報を得て、今までやってきた家事や生け花等の趣味等が継続できるよう、利用に至る敬意や生活環境なども職員間で共有し、これまでの生活習慣が継続できるような支援に努めています。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>日々のアセスメント以外に、ケアプランの更新時の際にもモニタリングや評価を行っており、職員一人ひとりが、利用者の現状をしっかりと把握し、必要な支援について個別ケアに努め、話し合い対応しています。</p>		

26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>担当者会議や日々のケアの中において、モニタリングやアセスメントを行い、本人や家族の意向に近づいた介護計画にする為、ご本人との会話を大切に、面会時家族や担当者会議にて職員からの情報を多く得て、介護計画書を作成、職員間で共有を行っています。</p>	<p>利用者の入居時に、アセスメントをもとに介護計画を作成する。その後は3ヶ月をめぐりに見直している。ミニカンファレンスなどで利用者の状態を把握している。3ヶ月または利用者の状態変化時に管理者及び毎週来所する法人ケアマネジャーが職員から利用者の様子を聞き、モニタリングや再アセスメントを行ない介護計画の見直しを行っている。必要に応じて医師・看護師のアドバイスを受けている。最長6ヶ月で計画を見直している。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人記録に、時間ごとのご様子や、入居者の言葉や様子を記録し、どういう思いを抱いているのかをリサーチし、日々の細かな情報や気づきを記録に残し、申し送りやカンファにて情報の共有及び、介護計画書への反映、見直しを行っています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に現状必要なサービス、今後必要になるサービスは何であるかを考え、本人と家族の関係性（これまでの生活歴等）を考慮しながら、かかりつけ医の受診の支援や親類との関係の調整など、必要なサービスにつなげるよう取り組んでいます。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターで行われる地域会議を通して、ボランティアの募集をしています。現在、そこから定期的に2名の傾聴ボランティアが来ています。豊かな暮らしを楽しんで頂けるよう、地域との関係性を深めたいと考えています。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の定期往診を受けていただいています。心身状態について家族や主治医と常に連携を取り、本人が適切な医療を受けられるよう支援しています。また、定期往診を受けていらない方も、家族との関係性を重視しながら、心身やご家族の家庭環境に応じて、職員が付き添いを行っています。	入居前からのかかりつけ医を利用する方が2名おり家族が受診対応をしている。内1名と他の利用者は協力医の往診を受けている。法人の看護師が週2回、来所している。往診前日に利用者の状態を医師にファックスで伝え、当日も立ち会い、健康管理を行なっている。往診時には協力薬局の薬剤師も来所し、看護師に協力している。利用者の健康状態を毎月のたよりで家族に伝えたり、希望があれば来所時にケア記録を見せたり、看護記録のコピーを渡したりしている。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の申し送りやケアの中で、相談を行い、個人記録に記入し情報の共有を行い、適切な受診や看護につなげています。また、看護師による介護職員への指導も行っており、適切な情報の伝達が行えるよう取り組んでいます。		

32	<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は介護サマリー（看護サマリー）や、往診医からの紹介状も迅速に提供し、情報提供に努めています。ご家族と連絡を取り、お見舞いに伺って相談に応じています。必要に応じムンテラを行い現状把握に努めています。ご家族の意向を考慮し、適切な対応をとれるよう支援しています。</p>		
----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>指針について入居時に説明し同意を交わし、家族の意向を確認しています。病気については早い段階で、ご家族にと十分に話し合い、主治医と連携を取り、必要に応じムンテラを行っています。急変時対応マニュアルに沿って支援できるよう職員間で共有しています。</p>	<p>契約時に「利用者の状態が重度化した場合の対応に関する指針」を利用者や家族に説明し、同意を得ている。事業所に看護師等の医療職がないので医療的行為を必要とする看取りはできないが、利用者の希望があれば、話し合っ得て同意を得て自然なかたちで最期を迎えるためのターミナルケアは行う意向である。</p>	<p>高齢の利用者もいるので、ターミナルケアについて方針を全職員と共有し、さらに具体的な準備をされることを期待します。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>入社時の研修や、社内研修で急変対応や事故対応の研修を行い、発見時の対応や報告、状況等事例や対策をたて、職員全員が対応できるように努めている。また、不安がある職員には、個別に対応の仕方を伝えています。</p>	/	
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に川崎市宮前消防署と連携し、日中の避難訓練、夜間想定訓練を実施しています。また、災害時備蓄品も備えています。</p>	<p>防災訓練は年2回、実施している。内、1回は夜間想定を含め、消防署員の立ち会いで実施している。地域の住民の見学もある。地域の防災訓練には、職員が参加している。自治会長、民生委員、地域住民（オーナー）が連絡網に入っており、災害時には協力を呼びかける体制となっている。</p> <p>食料、衛生用品など、職員分を含め、3日分の備蓄をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるという事を意識し、常に尊敬と敬意の念を持って接しています。たとえ、不穏状態が続いたとしても、その方の生活暦や性格を考慮し、言葉掛けや対応をしています。着脱や靴の脱ぎ履きの順番もご本人を尊重し、ご本人の順番に合わせて介助を行う工夫をしています。	理念の「利用者一人一人を大切に」に基づき、職員は笑顔で優しく相手のペースに合わせている。職員には接遇研修を行ない、人格の尊重やプライバシーについて周知させている。対応が不適切な場合は、その都度、注意している。 個人情報に関する書類は事務室のキャビネットに施錠して保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	危険な行為や言葉、他の方々に不快感や不穏な状態、健康状態に支障にならない限り、自己決定できる支援を心がけています。購入品の希望があった場合は、一緒に買い物へ行き、自分で選ぶように働きかけています。又、入浴後の着替えの洋服や飲み物も、自分で選べるよう声掛けを行っています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や更衣、炊事、掃除、洗濯の手伝い等、可能な限りご本人の意向を優先しています。働きたいのか、のんびりと過ごしたいのか、聞き取りや様子から意向をくみ取り支援しています。 就寝時間や起床時間も、体調等を考慮し、時間だから寝ていただく、起きていただく等の無理な促しは行っていません。		

39		<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>ご本人の意思や希望を尊重し、ほとんどの入居者が自分で衣服を選んでいます。季節やTPOに合った身だしなみができるよう職員からの声掛けも行っています。また、ご家族と相談して、衣類の買い物と一緒に出掛けています。</p>		
40	15	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>日常や食事レクレーションなどでは、入居者ひとりひとりの生活歴や意向を把握し、積極的に調理に参加していただけるよう、準備やさりげない声かけの支援を行っています。</p>	<p>食材とメニューは専門業者が配達してくる。調理は職員と利用者が共同で行っている。包丁を使う人や、配膳、下膳、食器洗い、食器拭きなど、利用者はそれぞれ出来ることを手伝う。食事レクレーションとしてメニューを決めて食材を買いに行き、利用者と一緒に食事作りをすることもある。外食や出前なども採り入れている。職員は声かけや介助、見守りを行って食事が楽しみなものになるように心がけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスの摂れたメニューにより調理を行っています。個人の状態に合わせ、ご飯の量を盛り付けています。また、適切な飲水量が確保できるように、声掛け等、支援を行っています。水分摂取量や食事摂取量は記録に残し、一日の総水分摂取量から、不足時はご本人の嗜好に配慮した飲み物などを提供して水分を取れるよう工夫しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に応じたケアを実践しています。毎食後、口腔ケアの介助が必要な方には、声掛けや見守りや、必要に応じて、介助を行っています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご本人の尿意や便意の訴えにより声掛け、誘導を行っています。尿意や便意の訴えの無い方、間に合わない方は、記録により排泄パターンを把握し、時間を見計らって声掛け誘導を行っています。	利用者は、布パンツを使っている方もいるがほとんどの方がリハビリパンツを利用している。排泄チェックシートにより個々のパターンを把握してタイミングを見てさりげなく声かけをし、トイレでの排泄を支援している。トイレの入口にはマークを表示して場所を分かりやすくしている。夜間だけポータブルトイレを利用する方もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの食事量、水分量を把握し、排泄の記録を残す事で、便秘の早期発見と予防に努めています。必要な飲水量の確保、おやつ工夫（ヨーグルトや寒天使用）にて排便コントロールの支援を行っています。		

45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて 入浴を楽しめるように、職員の都合で 曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々 に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴が楽しみになるよう、入浴剤を 使用し温泉気分を演出しています。 体の状態やご本人の意思を考慮し、 気分良く入れるよう声掛けを行って います。拒否がある場合はその方に合 わせた声掛けや誘導に努めています。 入浴ができない時が続くような場合 は、足浴や清拭で対応しています。</p>	<p>清潔保持のため原則として少なくとも 週に2回の入浴を行っている。午後3時半 からの入浴時間にすることで、利用者が 日中活動する時間を確保している。毎日2 ～3人が入浴しており、職員は見守りや介 助をしている。身体状況によりシャワー 浴、清拭にすることもある。浴槽が横に 移動し、手摺りがその人により捕まる位 置を変えられる。入浴剤を使用している ほか、レモン、柚子など季節の湯も楽し んでいる。</p>	
----	----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの入居者が、自由に自分の時間を居室やフロアにて過ごしています。お一人での移動が不可能な場合は、状態観察から、休息の声掛け誘導を行なっています。夜間安眠して頂けるよう、日中の活動内容も考慮し支援しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は特に配慮をし、症状の変化や経過などは主治医へ必ず報告し、連携に努めています。また、看護師が記載した往診記録の確認、又は、個人記録に添付してある薬剤情報を確認しながら、服薬の支援を行なっています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誰かの役に立つ事で生活に張り合いを感じて過ごせるよう支援に努めています。炊事が得意な方、洗濯干しや洗濯たたみが好きな方、手芸が好きで小物入れを作ってくださる方がいます。職員や他利用者から感謝されることにより、喜んでいただいています。職員から常に感謝の言葉をお伝えするよう努めています。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	施設の外部環境面から、日常的に坂を上って散歩に出られる方に限りがあります。可能な方は、ご家族対応も含め随時外出しています。車いすの方や歩行困難な方は、天候の良い時に玄関前に出て花を楽しんだり、水やりを行っていただいています。また、ドライブなどにも参加していただいています。リビングの窓を開放して、外の景色や風を肌を感じていただくなどの支援も行っています。	事業所前が急坂のため、日常的に全員が散歩に出かけるのは難しいが、歩ける人は、週に2~3回近隣に散歩に出かけている。行事としては、つつじ、アジサイなどの花見、外食、買い物ツアーやドライブなどの外出をしている。家族と外食や買い物に出かけることも多い。	

50	<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理は主に事務所で行っており、使った額を請求させていただき立替制度を取っています。ご希望に応じ、家族管理の下、小額のお金を所持できるようにしています。</p>		
----	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	用事がある時や、家に帰りたいという訴えがあった時には、家族了解の下、電話ができるように支援を行っています。また、手紙のやり取りができるよう支援し、大切な人との関わりが続けられるよう支援しています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングに季節の花を飾り自然な季節感を感じていただいています。また、ウイルス除去加湿空気清浄器を備え、毎日、湿度や温度管理をこまめに行っています。壁に写真などを飾りご家族や来訪者との会話に繋げています。	リビングルームは採光が良く、明るい。テレビに向けてソファを置いてくつろげるようにしている。おとなの生活の場として壁には飾りをつけない方針である。共有部分の清掃は、朝は「くるくるワイパー」で、夕方はモップがけや消毒を行なう。換気や空調に気を配り、清潔を保っている。花守担当職員が毎週、新しい生花を用意して飾っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者各々が、自由に気の合う入居者の居室に出入りして交流しています。また、自室で絵を書いたり、音楽を聴いたり自由に過ごしています。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やお気に入りの写真（アルバム等）や置時計などお持ちいただき、そばに置く事により、自宅に近い感覚で、安心して居心地よく生活できるよう、ご家族と一緒に工夫をする配慮をしています。	居室は、空調設備、照明器具、クローゼット、洗面台、ベッドが常備されている。利用者は、衣装入れ、たんす、テーブル、椅子、テレビ、鏡、裁縫道具や位牌、家族の写真など好みのものを持ち込み、住み心地の良い自分の部屋としている。	

55	<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室内設置の洗面台では口腔ケアや整髪、身だしなみ等自分でできるよう、個別性を重視した環境を目指し自立した生活が送れるよう支援しています。その人の力量に合わせて、家事の継続を行っています。</p>		
----	--	--	--	--